



福岡県立大学と 共に歩む会会報



平成25年9月1日号

発行責任者 秋吉 一明

編集責任者 鬼塚やよい

福岡県立大学と共に歩む会 創立20周年記念事業 “Asian Party” 完了報告 共に歩む会 副会長 植木 康太

平成3年の迎える会立ち上げからあっという間に22年。当時60歳くらいの武田さんをはじめ多くの先輩方も80の齢を頑張っておられる。小生の髪も少し薄くなり、ちょっとした事ですぐへたり、学生さんや留学生がますます遠くに見えてきました。

本会が続けて来られたのもみなさま方の協力と学生さんたちの若いエネルギーをいただいたお陰と心より感謝しております。特に先生方との緊密なお付き合いをさせていただけることは一市民として大変ありがたいことで、様々な知恵や識見、アドバイスをいただき、人間的にも成長させていただいている実感を覚えます。狭い基盤、思考の中で自分がいかに小さいかが感じ取られ、いろんな考え方、価値観の渦の中で自己を確立してゆくという事を学ばせていただいています。準備に半年かかった“Asian Party”でのシンポジウムにおけるパネラーの先生方や留学生についても県大が無ければ100%お会いすることの無い素晴らしい先生方で、本当に素晴らしい出会いをいただきました。ソウルの三育大学やタイ王国にも行って見たいと好奇心は募るばかり。重藤事務局長の下、大学と地域の有り方、国際交流のあり方、留学生の支援のあり方など多くの期待と課題を抱えながら今後の活動を模索してゆくこととなりますが、いずれにしても5万人の町に県大が在る奇蹟を大切に、地域の発展につなげていけることを願っております。以下報告です。

創立20周年を記念して以下の体制で、楽しい事業を行いました。

共催：福岡県立大学、田川市、田川郡町村長会

後援：中華人民共和国駐福岡総領事館、駐福岡大韓民国総領事館、NHK福岡放送局
読売新聞西部本社、朝日新聞社、西日本新聞社、毎日新聞社

この事業の一部は宝くじの助成金で実施しました。感謝！

事業内容

I アジア シンポジウム

□ 第一部 「基調講演」

福岡県立大学の柴田洋三郎学長による、「グローバル時代における大学の役割」と題した基調講演を実施しました。

□ 第二部 「パネルディスカッション」

福岡県立大学と共に歩む会の植木康太副会長の司会で、「送り出す思い・留学してみて」と題するパネルディスカッションを開催した。パネリストとして、南京師範大学（中国）・大邱韓医大学校（韓国）・ソウル三育大学校（韓国）・コンケン大学（タイ）の教職員と福岡県立大学の元留学生・現役留学生が登壇し、有意義な意見を交換しました。



翌日には

II 記念交流会 7/27（土） 10:00～15:30

- (1) 第一部 「食の祭典 みんなで作って味わおう お国自慢」
福岡県立大学の生協食堂で、和食（日本）、
水餃子と餃子（中国）、

タラのスープやキムチ、チャプチェ、チヂミ（韓国）、
グリーンカレーと焼き鳥（タイ）

など、アジアの様々な国の料理を堪能しました。調理は、同大に在籍する20人の留学生や関連団体のメンバーが行い、会場を訪れた約200人の参加者と交流を図ることができました。

(2) 第二部 「文化の祭典 みんなで楽しもう お国自慢」

福岡県立大学の講堂で、アジアの様々な国の伝統的な楽器の演奏や舞踊などを披露しました。

III その他

懇親会、20周年記念誌編纂事業、記念庭園の造園及び日本画贈呈式などの自主事業は、全て計画どおりに完了することができました。皆様様に心より感謝申し上げます。

（事業内容はDVDにて見ることが出来ます。希望の方は 重藤 事務局長まで）

御礼とご挨拶をさせていただきます

拝啓

厳しい暑さが続いておりますが、皆様は元気でいらっしゃいますか。本来ならば私から帰国後すぐに感謝状を贈るべきでしたが、あいにく出張で北京と福建を回りまして、先日家に戻ってきたところでした。姫には挨拶分を頼みましたが、今日改めて感謝状を贈っております。

この度、福岡県立大学と共に歩む会20周年記念日に、お招きいただきまして、誠にありがとうございました。植木さん、秋吉先生をはじめとする共に歩む会のような素晴らしい人に出会って、いろいろ勉強させていただきました。

とても楽しかったです。

変わりやすい中日友好関係の中、長い間、共に歩む会の皆様は、力を尽くして、わが南京師範大学の学生たちをご支援して下さることをとてもありがたく思っております。心より皆様のご親切に感謝いたします。

そして、この間、皆様とゆっくりお話できなかったことは少々残念です。今度、ぜひ、南京にいらっしゃってください。いろいろご案内させていただきます。南京師範大学でお待ちしております。

植木さん、この度はお疲れ様でした。ありがとうございました！しょうちゃんから歩む会の二十周年記念誌を受け取り、大変懐かしく感じられ、また思い出す度、胸がいっぱいです。陸敏さんにも連絡を取ってみますので、ご安心なさってください。奥さんとお息子さんに大変お世話になり、くれぐれもよろしくお伝えください。伊藤市長や浦田町長、高橋さんにもよろしくお伝えください。重藤さんにはすばらしい写真を撮っていただき、大変ありがたく思っております。

最後に、中日友好関係が末長く続くよう願ってやみません。

末筆ながら、暑い日がまだまだ続くでしょう。皆様はくれぐれもお体にお気をつけてください。

林敏潔 拝



振り返って

ト群（セングン）

八月五日、私たち六人は福岡空港から上海ゆきの飛行機に乗りました。これで一年間の留学生活がピリオドを打ちました。一年ぶりに国の空気を吸った瞬間、感慨無量でした。その後の何日間、一年会ってない家族のみんなと友達に会うことがやっとできました。親戚と友人に会う時によく「日本での留学生活どうだった？」と聞かれます。日本での一年間の生活を思い出すと、私はいつも懐かしく思っています。その新鮮さと楽しさと孤独、それから感動に溢れた日々を。



光陰矢のごとし。一年間は長いようで短い時間で、あっという間に過ぎてしまいました。一年の間に、日本や日本文化について勉強することができて、いろんな人と出会って、いろんなことを経験して、これからの長い人生にとっては、すばらしい経験だと思います。収穫の多い一年間であると同時に、感慨の深い一年間でもあったのです。学校の先生たちも、歩む会の方々も、みんな優しくしてくださって、本当にありがたく思っています。去年の十月の歓迎会を皮切りに、食事会やパーティーなど、皆さんはたくさんの活動を用意してくれました。それを通して、日本の文化や習慣をもっと深く理解するようになりました。

勉強だけでなく、アルバイトもちゃんとしました。いろいろ苦労したんですけど、ものすごくやり甲斐があると思います。バイトで稼いだ給料でいろんなところに旅行に行きました。東京、沖縄、京都、大阪、奈良、神戸、広島、たくさんの思い出を作りました。おしゃれな大都市、伝統的な町、多彩な日本を体験することができました。そして、日本の茶道も一年間学んでいて、とてもいい経験でした。

こんなにたくさんの思い出の残った日本と別れるのはものすごく辛いです。最後の送別会でみんな涙を溢れながら別れを告げました。最近、ドラマでこのようなセリフを見ました。「送別会って、別れを惜しむ会ではなく、出ていく人間がいつでも戻ってこれる場所を確認する会なんだ」って。そうですね、帰国は終わりではありません。人生は一期一会ですが、人と人の縁が結ばればそれは一生の宝物だと思います。

留学感想文

王雅君



時間の経つのは実に早いものですが、私たちの留学生活があっという間に終わりました。この一年間を振り返ってみて、楽しいことも悲しいこともいっぱいあって、ほんとうに充実した一年間でした。どこから言えばいいのか、自分にもよくわからなくなってきました。

まず、やはり田川の生活から話しましょう。去年の9月22日に、私は福岡に着いて、田川に来ました。最初はやはりみんなと同じようにびっくりしました。来る前には先輩から色々聞いていたのですが、田川はこんななかだとは思わなかったのです。自分がこれからどう生活していくのかもほんとうに迷ってしまいました。幸い、優しい先生方々がいてくださいました。私たちを色々なところに連れていったり、悩みがあるとき、聞いてくださったり、美味しいものをご馳走したりして、田川は豊かな自然の他に、人も本当に優しいことが実感できたと思います。

そして、アルバイトができたなら、自分の生活がより一層充実したと思います。私は大任町の道の駅のパン屋でバイトしていました。最初バイトが見つかったとき、本当に楽しくて、自分も大人になったなあと自慢し始めました。しかし、一番悩みが多いのもバイトのことなのです。中国と日本はやはり文化の違いがあって、よく知らないうちにお客様に怒られたりしました。自分も理由がわからないから、その時本当に落ち込みました。ひどい天気にもたままたま遭ったし、台風の日も雪の日も猛暑の日も乗り越えて、自分が精神的に強くなってきたような気がします。

一番楽しかったのは旅行です。この一年の間に、先生が連れて行ったところの他に、私は東京、長野、日光、横浜、鎌倉、大阪、京都、奈良、沖縄、熊本など有名なところに行ってきました。まさに日本の景色を満喫したと思います。北海道も行きたかったのですが、なかなか時間がなくて、残念ですが、今後機会があったら、もう一度日本に戻って、行ってみたいと思います。

いま中国に帰ってもうすぐ一ヶ月になります。友人と田川のことを話す時、この一年間のことは本当なのかなと、自分はまるで長い夢を見ていた気がします。写真を振り返って見るとき、やはり日本の景色も人も懐かしく思います。

一年を経て、今こそ言えます。田川に着て、県立大に着て留学したのは間違いのないことなのです。今まで、お世話になった先生方々には、お礼申し上げます。この一年間、色々ご迷惑をかけて、本当にすみません。お世話になりました。ありがとうございました。

県大同窓会総会のシンポジウム参加 報 告

植木 康太

お声がかかり、第25回福岡県立大学同窓会総会のシンポジウムにパネラーとして参加をさせていただきました。

総会は隔年での実施のようで70名くらいの参加者が集まっていました。前身校を含め約10,000名同窓生がいらっしゃるようで、もっとにぎやかだといいのになあと感じました。田川での看護学部は別同窓会を構成しているようで、早く一体化できると良いなあ〜と、少し残念に思いました。総会終了後のシンポジウムは、森山教授、中村 CDR21 代表（伝説の7期自治会長）、現役学生の竹内さんとで登壇し、「地域資産として期待される県立大学の姿」をテーマにそれぞれの思いを語りました。私は共に歩む会20年の歩み、「街灯」や「YOU・遊・マップ」や「留学生支援」報告をし、アジアの大学の先生方をお呼びしての「記念事業」、アジアシンポジウムなどが成功裏に終えられたのも田川の宝、「県大」のお陰、大事にしようと思えました。



朗らかなシンポジウムの後、懇親会にも参加させていただきました。田川市役所の職員もいて昼まっばらから美味しいお酒をいただきました。田川市役所にも多くの県大卒業生がいる事に気がつき、ますますの活躍をお願いしてきました。

せっかくの久しぶりの小倉、リバーウォークを散歩し、娘に一着ド派手な服を買い求め、最近できたと言う「屋台村」を訪ね、また一杯いただいてJRで戻りました。

幸せな一日をありがとうございました。

記

期日：平成25年8月25日（日）

場所：小倉リーセントホテル（西小倉駅から徒歩3分）

時間：10時～15時

内容（1）：総会

内容（2）：卒業生・地域シンポジウム

テーマ 「地域資産として期待される県立大学の姿」

コーディネーター

福岡県立大学副学長 森山 沾一 教授

シンポジスト

福岡県立大学と共に歩む会 副会長

CDR21 代表

県立大学4年生2012年度秋興祭実行委員

植木 康太 氏

中村 成也 氏

竹内 志織 氏

~~~~~  
ゴミのないきれいな浜辺を取り戻そう・・・ボランティア募集

## 第12回 芦屋・若松クリーンキャンペーン

日程/平成25年9月15日（日）【雨天時は9月29日（日）に変更】場所/芦屋町 船原漁協前

スケジュール 10:00開会式 10:15ゴミ拾い 11:45閉会式 12:00 終了

臨時バス 午前8時30分田川市役所出発 ご利用の方は、植木 0947-23-0300まで  
午後1時30分に柏原漁協前駐車場を出発します。

田川未来塾から始まった芦屋清掃、掃除の後の海鮮バーベキューも楽しみです。

## 次回定例会

日 時：9月9日(第2月曜日)19時30分

場 所：2号館2階地域文化資料室

